２－２　子どもの病気時の保育

子どもの病気時に良質な保育を行うサービスが充実。

妻：あら、りな、熱があるわよ。私、今日大切な商談が入ってるんだけどあなた休める？

夫：僕も今日は朝から社長へのプレゼンでもう出なくちゃいけないんだ。

妻：じゃあ、病児保育をお願いする？かなり熱が高いから保育所の病児保育室ではなくって、看護婦さんに来てもらう方がいいわね。

夫：そうだね。じゃあ、君から電話しておいて。

（一般的イメージ）

子どもの病気が長引くと長期間の休暇を取らざるを得ない状況に。場合によっては退職しなければならない状況に。

妻：大変、りな、熱があるわよ。

夫：今日は僕は朝から社長にプレゼンしなければならないから休めないよ。

妻：今日は私も大切な商談があるんだけど、どうしよう？

夫：僕は無理だよ。

妻：私も休めない。

夫：しょうがないなあ、ジャンケンしよう！

妻：じゃあ、一本勝負で！（ジャンケンをして妻が負ける）ああ！！この前も大切な商談をドタキャンしちゃったし。もう大切な仕事は任せてもらえなくなっちゃうわ。

２－３　リフレッシュ等のための保育の充実

リフレッシュ等のために子どもを預けることが可能となり、子どもを持つ親の生活に明るさが出る。

妻：明日は結婚記念日ね。私たちが知り合ったパレスホテルのレストランにフレンチを食べに行かない？

夫：そうだね。りなが生まれてから、もう本当に育児で大変な生活だったからね。二人でリフレッシュしようか。明日の朝に近くの保育所に一時保育の申し込みをしよう。

妻：久しぶりの外食だから楽しみね。りなももう４ヶ月でだいぶ安定してきたから、たまには一時保育を利用してリフレッシュしましょ。私、行きたいコンサートや映画があるのよ。

夫：そうだね。僕が面倒を見て、君に遊びに行ってもらうのもいいけど、たまには二人でも出かけたいもんね。

（一般的イメージ）

女性は子育てに追われて全く自由な時間がなく、育児ノイローゼとなる者も存在。その状況を嫌う者が増加し、ますます晩婚化が進行。

妻：なによ、今日もこんな時間に帰ってきて。また飲んできたの？いい気なもんよね。私一人に子どもを押しつけて・・・、もう朝からずっとビービー泣くから、ろくに食事もしてないし、お風呂に入ったって頭も洗えないし、もう、もう、私限界！（泣き崩れる）。

夫：なんだよ。今日は飲んでないよ。仕事だよ、仕事。もう、おれだって疲れてるんだから。先に寝るね。

妻：もうイヤ、子どもが産まれてから、なんにも楽しみがないじゃない。友達はまだ結婚せずに遊び回ってるのに、私だけ髪振り乱して赤ん坊の世話なんて、もうやってられないわ。みんな旅行したり、飲みに行ったり、おしゃれしてるのよ。ああ、早く結婚なんてするんじゃなかったわ。

夫：こんな面倒くさいことになるなら、一人の方が楽だよ。

3．働き方

3－1　就職・就業形態

労働市場が整備され再就職や労働移動が円滑に。専門的な能力を有し、企業間を渡り歩く労働者が増加。出産・育児に係る環境や労働市場が整備され、女性の就職も進む。

夫：今度、コンサルティング会社に転職することにしたよ。人材紹介会社に登録して転職先を探していたんだけど、その会社は僕がこれまでキャリアを積んできた医療経営のコンサルタントを求めていて、僕のキャリアを高く評価してくれたんだよ。あそこは今度、富士見医療センターの経営改革をやるみたいだから、僕のキャリアを磨くのに最適なんだ。真紀も今度小学生になって教育費も多くなってくるからサラリーがいいところの方がいいし。

妻：よかったわね。おめでとう。真紀ももう小学生だし、創太も３歳で保育所にも慣れたようだから、私も、また働きはじめようかな。真紀ができる前にやっていた国際法務のレベルアップ・コースを受講して、会社を紹介してもらいたいな。育児との両立を考えると育児支援制度が整っていて在宅勤務ができる会社がいいね。

夫：そうだね。結構そういう会社はあるよ。その分野の能力要件もだいぶ変化してるようだから、キャリア・コンサルタントに能力評価してもらって、足りない部分の訓練を受けるといいんじゃない。

妻：そうね、明日早速、ホームページにアクセスしてみるわ。

（最悪シナリオ）
労働市場が未整備で再就職が困難。特に技術革新等によりミスマッチが拡大。出産・育児に係る環境が整わず、女性の就職も進まない。低賃金・不安定雇用のパート労働者や派遣労働者が増加。

夫：じ、実は僕、会社がクビになったんだよ。

妻：えっ。どうするのよ。明日からどうやって生活していくの。でも、しばらくは失業保険が出るんでしょ。どのくらい出るの。あんたがんばって早く就職してもらわないと、まだ、うちには住宅ローンも子どもの教育費もあるんだから、しっかりして。

夫：これまでやってきたような仕事はもう時代遅れなんで求人がまったくないよ。技術校に通おうと思うんだけど、僕みたいなおじさんには突然新しいことを学べって言われてもついていけないよ。ほんとすごく就職が厳しいんだ。あとは賃金の安いパートや派遣の求人ばかり。結構僕みたいな年代でもパートに行く人が多いんだよね。この歳になって重労働で安い賃金の仕事をするとは、ほんと情けなくなっちゃう。

妻：私も子どもが出来る前は働いてたけど、出来た途端に遠くに転勤させられたりして辞めることに追い込まれたわ。今から仕事を探しても私もパートしか仕事はないでしょうし、本当にどうしましょう？

３－２　就業に対する意識

インターンシップの定着など若年者への職業意識の啓発支援が効果を上げ、学校から職業への移行がスムーズに

弟：兄さん、そろそろ高校卒業後の進路を決めなくちゃいけないんだよね。いろいろ迷っていてさ・・・。

兄：難しいよね。僕も迷ったけど、高校生時代に職場体験学習の時間があって、銀行とか証券会社に行ったり、メーカーの企画開発の人と一緒に仕事をしてみたこともあったんだ。その中で一番興味があったのが、ものをつくる仕事だったから工学部を志望したんだ。学生時代も夏休みなんかを利用して海外を含めいろいろな会社でインターンシップをしたんだよ。大学でも熱心に紹介してくれたしね。

弟：夏休みに海外ばかり行っていると思っていたら、そういうことをしていたんだ。今の仕事に就くのにインターンシップは役立ったの？

兄：そうだね。工学部を選んだ後、専攻を選ぶにときも、インターンシップの経験を考慮したよ。海外で働いてみたいという希望もあったから、実際仕事をしながら暮らすことができたのはいい経験だったな。いろいろやってみたけど、昔から自動車が好きで、やっぱり自動車会社で企画開発をするのが一番自分に向いてそうだと分かったんだ。だから、学部の専攻も迷わなかったしね。今はインターンシップで行ったこの会社に就職できてかなり満足しているよ。

（一般的イメージ）

社会保障負担増から勤労意欲低下。若年者の職業意識の希薄化が益々進み若年の高失業化が拡大。

弟：兄貴、よく家族も顧みずそんな長時間働いてるな。しかも働いたってほとんど税金や社会保険料で取られちゃうんだろ。やってらんねえー。どうせ年金なんて俺たちがジジイになる前に破綻するんだから、入ったって意味ねえし。バイトでも食っていけるんだからそれでいいじゃん。俺の友達なんてみんなフリーターでちゃんと就職する奴なんていないよ。

兄：そうは言ってもな、お前、バイトで今はいいかもしれないけど、オヤジ世代になったら大変だぞ。今の給料で子どもを養っていけるのか？ほら、最近、元フリーターのおじさんでなんのキャリアも積まないで来て、失業と日雇い仕事を繰り返してるホームレスがめちゃめちゃ増えてるだろ。

弟：まあ、俺はどっちにしても会社人間にはなりたくねえから、適当にやるよ。兄貴は家族のためにがんばってくれや。

4．高齢者の暮らし

4－1　高齢者の再就職

高齢者も、貴重な労働力としてそれまで長年築きあげてきたキャリアを活かした仕事をすることが容易に。

夫：おかえり。面接、どうだった？

妻：なかなか手応えあったよ。私が長年築きあげてきた営業の知識と経験をたっぷり売り込むことができたと思う。今日行って来たテムズカンパニーは、この前の渡良瀬商事より給料が良くて魅力的なのよ。でも週５日勤務だから、ちょっと体力的にもきついし。

夫：そうだね。渡良瀬商事なら週３日だから、君が前から入りたいって言ってた地域の登山サークルにも一緒に入れるじゃないか。少ないけどおれの収入もあるし、プサンインベスターズの年金プランの支給もあるし、株の配当もあるし、もう子どもも独立して２人なんだから、給料のことは気にしなくていいんじゃないか。

妻：そうだね。無事に渡良瀬商事に決まって初給料が出たら、自分へのご褒美に、久しぶりに２人で山に登りに行こうね！

（最悪シナリオ）

高齢者の再就職は単純労働が主流。多少なりとも長年のキャリアが活かせそうな求人には多くの高齢者が殺到し、なかなかやりがいある仕事に就くことができない。

妻：あ、おかえりなさい。面接、どうだった？

夫：いや、今日の面接もダメだったよ。たった１人の求人にあれだけ人が来ていてはね。

妻：そうだったの･･･。でも、年金がもらえるようになるにはまだ年数がかかるし、最近、お金苦しいのよ。失業給付だってもうすぐ切れるんでしょ？お願いだから選り好みしてないで、何とか早く勤め先を見つけて。

夫：そう言われても、この歳になって、今までの知識も経験も何も活かされないところで、黙々と単純労働するなんて耐えられないよ。面接だって、自分より一回りも二回りも若い奴に志望動機を偉そうに聞かれて･･･。解雇される前は、営業一筋で理不尽だと思ったこともみんな耐えて必死にやってきたのに･･･。俺だって辛いんだよ！

４－２　高齢者の社会参加

定年などで退職した者も、専業主婦（夫）も、高齢期ならではの様々な形の社会参加の道がある。

夫：今日は木曜日か。君は、小学校の課外授業の講師に行く日だったね。今日は、どんなことを教えるの？

妻：先週の続きで、お手玉づくり。先週は、小学校の中庭で育てている朝顔で、布を染めるところまでできたから、今週は、その布を使って、いよいよお手玉を完成させるんだ。来週は、お手玉の練習をして、お手玉大会でもしようかな。

夫：お手玉とは、懐かしいね。大会も是非やったらいいんじゃないかな。僕も何か、若い人に教えられることがないかな。そういえば、来春卒業の大学生を対象にして「働くってどんなこと？」っていうテーマの講座をコミュニティーセンターが開くらしいんだ。その講師の募集のメールが来ていたから、応募してみようかな。

妻：それはおもしろそうじゃない。延長学級から帰ってきたら、詳しい内容を教えてね。あら、もう時間だ。行かなくちゃ。あなた、晩ご飯の支度をお願いね。

（一般的イメージ）

定年などで会社勤めをやめたとたん、社会との接点がなくなってしまい、自分の経験や知識を人に伝える機会もなくなる。

妻：あなた、会社を辞めたとたん、元気がないじゃない。テレビばかり見ていないで、少しは、家事の手伝いでもして。

夫：今までしたこともないのに、突然できないよ。なんだか、働いていた頃と違って、毎日が単調だなあ・・・今は、孫が遊びに来ることだけが楽しみだよ。

妻：そうね、あの子が遊びに来ると、家が活き活きしますよね。この間遊びに来たとき、あなたが将棋を教えてあげたでしょ。とても喜んでたみたい。同じ年頃の子が近所にもたくさん住んでいるから、その子たちにも教えてあげたらどう。

夫：おれ一人でどうやってやるんだ。それより、早く夕飯にしてくれないか。

第４部　　本報告書に対する若者の声

本報告書の原案に対し、各メンバーの友人関係を頼り、省外の同年代から、多数の有意義な御意見をいただきました。
ここでは、その一部を御紹介いたします。

＜価値観・生活スタイル＞

- 夫婦と子どもの一家庭のみを挙げて「こうあって欲しい」社会とするのは、多様化がますます進む現状において、国が一つの在り方を前提にしており、問題。多様な生活設計をする人々を、それぞれのニーズに合ったようにサポートする社会、人々の価値観の多様性を国の施策が積極的に受入れ、ライフスタイルに中立な社会を目指すべき。（２０代（女性）、大学院生）
- ２０２５年に子育てする世代は現在子育てされている世代であり、今まさに親の姿を見て、親の愚痴を聞かされ、幼少期の多感な心に刷り込まれ、育児に対するネガティブな感情が醸成されかねない。２０２５年といわずに早急に解決すべき課題である。（３０代（男性）、通信）
- 学生結婚・出産には違和感。働きながら学ぶだけでも経済的には大きな負担であり、子育てまで学生二人で対応しきれるのか。（２０代（女性）、公務員）
- 「高校卒業後は親から自立、働きながら学ぶことが一般化」、「学生結婚・出産の増加」は、今の世の中の流れからみてなぜそうなるのかよく分からない。（(女性)、出版）
- 子育てが格好いいと思われるようにすることが重要ではないか。（２０代（男性）、省内）
- 個人主義化するため、生活の単位が夫婦や家族ではなく、個人単位の人が増加し、結婚する人間が減少するのではないか。また、教育やしつけが単調になってきている中で、未熟な大人が増え、責任を持てない人間が増加し、自分以外の者を支えることは難しくなるのではないか。（３０代（男性）、卸売）
- ペイドワーク（賃金労働）での男女間の差を無くすためには、アンペイドワーク（家事、育児等）における男女間の不均衡を無くすのが前提という意識転換が重要。育児と家事を女性のみが背負ったままでは、女性は職場で男性と同様には働けない。（２０代（女性）、大学院生）
- 専業主婦を選択するのもカップルの自由。その選択を否定的に捉えるのはおかしい。（２０代（女性）、住宅）
- 夫の育児に対する意識は大いに変わると思うが、夫婦の役割は夫婦で決めるのが理想であり、専業主婦を希望する者も少なくないと思う。（３０代（男性）、省内）
- 夫婦だけの時間を大切にする人たちは子どもを作らないのではないか。（２０代（男性）、公務員）
- 在宅勤務は、仕事と家事、育児を分離しにくいという考えもある。また、在宅勤務が健太ではなく美咲というのは、「育児は女性の責任」という意識が残ったまま、という気がする。（３０代（女性））

＜社会保障全般＞

- 年金制度の問題等高齢化社会への対応について触れなければ未来予想図とはならないのではないか。（省内）
- 児童・家庭に対する社会保障給付の割合の増加となると、どこを削減するのか。高齢者への対応は大丈夫なのか。（３０代（男性）、通信）
- 社会保障の個人単位化は、個人化の流れを助長するのではないか。（２０代（男性）、公務員）

<子育て支援>

- 育児に対する経済的な不安の解消について触れられていると、より共感できるものになったのではないか。（３０代（男性）、通信）
- 延長保育や夜間保育が進まないのは保育士も母親である場合が多いからであり、保育サービスの充実も、労働時間の弾力化も誰かの家庭を犠牲にしないと成り立たないのではないか。（(男性)、省内）
- 子どもの看護休暇がとりやすくなることはよいことだと思うが、子どもの病気は突然の場合が多いので、どうしても休めない場合のために、休暇よりも病気の子どもを安心して看てもらえるようにすることが大切ではないか。（(男性)、省内）
- 欧米のように育児シッターのような他者が家庭内に入ってくるのは、日本では想定しがたい。むしろ、ドクター等医療系スタッフが常時駐在し、受入も２４時間可能、ショートステイもできるといった医療と育児の両方に対応でいる施設があれば、夫婦だけの時間も大切にできるし、夫婦とも仕事に没頭することもできるのではないか。（(男性)、省内）
- 育児シッターの普及は費用面で難しいのでは。料金が安いとなると賃金もやすいということではないか。（２０代（男性）、公務員）
- 育児シッターは身内か近所の親しい人でないと実現が難しいのではないか。（３０代（男性）、省内）
- 育児シッターを有資格化して、安心して任せられる環境が欲しい。（２０代（男性）、商社）
- ベビーシッターは、大学生だけでなく高齢者の働く場としても有効ではないか。（２０代（女性）、省内）
- 父親が保育園に預けに行くのは今でもよくあることではないか。（省内）
- 子育て世帯への経済的援助、託児施設の充実、企業側に対する育児支援への優遇制度といったものを充実させないと子どもは増えないのではないか。（３０代（男性）、卸売）
- 公的な支援は子どもを持つことの阻害要因の除去にはなると思うが、子どもを持とうとするインセンティブについての問題の根本的な解決策にはならないのではないか。（２０代（女性）、公務員）
- 子どもが帰宅すると親が既に仕事から帰宅しているという状態は理想だが、学童保育や地域の子育て機能の充実も必要ではないか。（公務員（男性））
- 金融機関の合併等により、大手町や赤坂、霞ヶ関等に空き店舗が多数あるが、その場所を国（都道府県）等が借り、「育児センター」のようなものを作れないだろうか。（２０代（男性）、商社）
- 「子どもは夫婦の持ち物で各夫婦の責任」から「子どもは社会の子ども」という意識転換が必要。子育てに係るコストはもっと社会化する必要がある。シングルマザー、シングルファザーでも育てやすい社会に。（２０代（女性）、大学院生）
- 男性にも育児に参画する義務を課す必要があると思う。意識が変わるのを自然に待つのではなかなか変わらない。制度によって意識を変えるという発想もあっていいのではないか。このまま男女ともに仕事に邁進する社会では、犠牲になるのは子どもだと思う。（２０代（男性）、公務員）

<ボランティア>

- 「育児シッター」の職務内容はあまり大学生が希望する職種とは思えず、主要な雇用の場にまではならないのではないか。また、個人主義的に考える流れの中で、放課後の子どもの面倒を多くの学生やお年寄りがボランティアでみようとするのか。全般的にみんなが子ども好きでないと、第２部で描かれた社会は成り立たないような気がする。ボランティア活動は意識の高い人にしか現状でも広まっていないし、家族のレジャーとしてのボランティア活動は強い契機がないと広まらないのではないか。（２０代、主婦）
- 海外留学や海外ボランティアの義務化などをやってみてはどうか。（３０代（男性）、銀行）
- 個人主義化するため、自分のこと以外のボランティア活動などに興味を持つ人は減少するのではないか。（３０代（男性）、卸売）
- 小学生の遊びは、同級生同士でやるのではないか。小学生が老人の相手をしに行く方が自然。過保護すぎ。（３０代（男性）、省内）
- 我々が高齢者になったときに子どもに教えるような遊びがあるのだろうか。（２０代（男性）、公務員）

<雇用管理>

- 派遣労働者と代替できる者は正社員として雇わないのではないか。また、育児期の短時間勤務などを導入する企業に対して助成しない限り、そう簡単には広まらないのではないか。そもそも営業職は交替で行うことは難しいのではないか。（２０代、主婦）
- 労働時間と給与の問題は企業にとっては「そんな都合のいい話はない」ということになるのではないか。労働時間が半分なら、給料はそれ以下になってしまうのではないか。（３０代（男性）、銀行）
- フルタイムとパートが「正規社員」と「非正規社員」から、「正規社員」の中でのフルタイム、パートタイムになるべき。（２０代（女性）、大学院生）
- ２人で１．５人分となると、育児期間中、０．７５人分働くことに理解を示す余裕のある会社は出てくるのだろうか。企業間の競争が激しくなっている現状からすると制度ができても奨励する余裕はないのではないか。（２０代（男性）、保険）
- 育児期間中の短時間勤務やフレックスタイム制が広く認められるようになれば少子化に効果があると思うが、実際にこのような制度を利用する場合に、人事上不利な取扱を受けないといった不安を払拭するような仕組み・職場環境作りも必要ではないか。（不明）
- 企業における少子化対策への貢献としては「男性の育児休業義務化」が必要となると思う。（２０代（男性）、商社）

<働き方>

- 第２部で描かれているような雇用形態を認めると、少なくとも企業としてはコスト増になるため敬遠するのではないか。また、女性個人としても、仕事を全力でやりたいというニーズも相当強いのではないか。相当強く、高島一家のような生活を理想とする人が少ないからこそ、少子化なのではないか。（２０代（女性）、証券）
- この話の夫婦のように、フルタイムと短時間勤務を組み合わせた１．５人分の働き方・収入で子どもを３人育てることができるのか疑問（（女性）、出版）
- 現実はいつ残業が入るか分からない。家事・育児の分担もきれいに半々とはならず、夫婦のうち、短時間勤務をしている者が家事・育児のメインの部分を引き受けざるを得ないのではないか。（（女性）、出版）
- 趣味、地域活動等に充てる時間を増加させるためには、長時間労働をなくすことが必要である。（省内）
- 夫婦で１．５人分の仕事はどうやって実現させるのか。夫婦が別の企業に勤めていても可能なのか。（３０代（男性）、電力）
- 仕事の分担は効率的な面がある一方、非効率な面もあり、一部の職種に限られるのではないか。情報化などにより雇用人数も減少することが予想され、このような社会の変化に対応できなかった人は職を失い、生活できなくなってしまう可能性もあるのではないか。（３０代（男性）、会社員）
- ネット上のセキュリティーが発達することが在宅勤務普及の前提となるのではないか。（不明）
- ２人で１．５人分働くということはいい。労働環境としてはＳＯＨＯの拡充や長期休暇制度の浸透などにより整ってくるだろうし、社会的にも女性がもっと社会進出すべきという風潮が強まってきているので実現可能ではないか。（２０代（男性）、保険）
- 通信系の発達により生産性が格段に向上する可能性はあり、そういう意味では高島一家のような家庭はあり得るだろう。（２０代（男性）、銀行）
- 専業主婦を希望する女性もまだまだいるのではないか。（２０代（男性）、公務員）
- 在宅勤務もフレックスタイムも職種が限られるのではないか。通勤地獄が緩和されるか疑問。（２０代、主婦）

<高齢者>

- 高齢者がどのように生活しているのかがよく分からない。親の介護を抱えていれば、このような優雅な生活は送れないのではないか。（２０代（女性）、公務員）
- 高島家が介護を迫られているとすればここまで綺麗な未来にはならないのではないか。（２０代（男性）、銀行）
- 介護問題の記述がなかったが、例えば、遠距離介護を行っている社員がいる場合には、優先的に介護施設への入所を認めるなど、企業の制度として一定の要件に合致すれば支援策を講じる等の社会環境整備についてもお願いしたい。（２０代（男性）、商社）

<教育>

- 少子化でなぜ学費が低下するのか。（２０代、主婦）（２０代（男性）、公務員）
- 少子化に伴い、今後さらに大学の競争が激しくあるとすれば、大学の質の向上も必要であることから、費用はそれほど低下しないのではないか。（３０代（男性）、省内）
- ゆとり教育の反動で学習塾に通っている現状をみると、今以上に学習塾に熱を入れるということにはならないのか。（３０代（男性）、通信）
- 校庭の芝生化は是非実現して欲しい。（３０代（男性）、製造）
- 校庭の芝生化は維持するのが大変だし、ガラスの破片があったりして危険性もあるのではないか。（（男性）、公務員）

<国際化>

- 女性、高齢者、学生の労働力化に加え、外国人の労働力のウエイトが高まるのではないか。（３０代（男性）、証券）
- 現在でも、登録レベルだけで１００人に一人の割合、登録外を含めるとそれ以上の割合にある外国人の方々の存在について、例えば、友達や近所に外国人がいるような設定にし、さらに、その人達とも楽しく生活しているという多文化共生社会の実現に向けてのビジョンを描くべき（３０代（男性）、研究者（日本語教育）、）

<住宅・自然環境>

- 都市部の地価が抑制されると、逆に都市に人口が流入するため、一人当たりの居住面積はそれほど広くならないのではないか。（２０代、主婦）
- 高速道路の地下化は構想としてはいいが、公共事業費を抑制しようという今の流れの中では実現しないのではないか。（２０代（男性）、保険）
- ここで描かれた２０２５年の自然・環境の姿は大変いいことだと思う。（２０代（男性）、公務員）

<その他>

- 親や親戚、近所の人達との交流についても考えるべき。（３０代（男性）、研究者（日本語教育））。
- 現在の膨大な財政赤字、企業のリストラ、収入減などからは、ここに描かれている豊かな生活の元手、個人の収入にせよ、国の収入にせよ、なかなか「実現可能」とは思えない。（公務員（男性）、４０代）
- 同世代が共感できる姿が描かれており、その実現に向けての行政の多様なバックアップに期待する。（３０代（男性）、通信）
- 少子化は若者の晩婚化によるのも大きいのではないか。若者の結婚環境の変化（結婚したくなるような社会）も検討してみてはどうか。（（男性）、省内）

- 児童・家庭への社会保障給付の増加、看護休暇、短時間勤務などに当然付随する社会的なコストの増加についても触れるべきではないか（省内）
- この例が悪いとはいわないが、これが理想の姿であるとして示すことには違和感を感じる。もっと多様な姿を併記した方がいいのではないか。（省内）
- 我々の世代が中高年世代になる頃だろうから、中高年もそれなりに未来は明るいというメッセージは出せないのか。（（男性）、省内）
- バラ色過ぎるのではないか。実現可能性があるとも思えない。（不明）
- 登場する子どもに手がかからなすぎる。現実的なにおいがもう少しした方がいいのではないか。（２０代（女性）、通信）
- 円満な家庭ばかりではなく、離婚率も相当上がっているのではないか。（２０代（女性）、公務員）
- 高島家はエリートという感じがする。（２０代（男性）、保険）
- この頃には、夫婦別姓が主流ではないか。（４０代（男性）、公務員）
- 家計の収入の構造は、共働きが前提か（賃金水準、年金・税制度等は？）。（４０代（男性）、公務員）
- 妊娠しながら働いている女性の通勤の負担の軽減を図るためにも、マタニティーリング的なものは必要。（２０代（男性）、商社）（２０代（女性）、省内）
- テレビゲームのＩＴの影響が、こどもが育つという局面に想像以上の悪影響を及ぼしていくと思う。こうした中で、ここで描かれているように親子のふれあいを保つのは至難の業ではないか。（２０代（男性）、公務員）
- 仕事以外に価値を置く人は増えると思う。余暇市場はもっと拡大するのではないか（２０代（女性）、大学院生）
- 「家族」という概念自体が、多様化、流動化すると思う。子どものいない家庭、同性愛者のカップル、片親の家庭等、様々な形がそれぞれもっと受け入れられやすくなり、また、人生の間に、結婚、離婚、同棲が一回づつとは限らない社会になるのでは。（２０代（女性）、大学院生）

「2025年の社会の姿ワーキングチーム」メンバー

（５０音順）

河村　のり子
源河　真規子
佐々木　菜々子
佐藤　由佳
下向　智子
白川　泰之
武田　康祐
日野　力
姫野　泰啓
古瀬　陽子
蒔苗　浩司
簑原　哲弘
幹事　森　新一郎

（年齢構成）	２０歳代後半　７人、３０歳代前半　６人
（既・未婚）	未婚者　７人、既婚者　６人（うち子持ち４人）